

地域に求められる「秋田スギ美林誘導プロジェクト」 の実現に向けた検討

米代東部森林管理署上小阿仁支署 発表者	主任主事	沖田 雄都
	主事	吉田 竜響
チーム員	森林整備官	齊藤 幹保
	主事	三浦 真澄
	主事	菊池 瑞佳
チームリーダー	森林技術指導官	九島 紀義
アドバイザー	総括森林整備官	山城 卓也

1 はじめに

米代川流域の秋田杉の天然林は、青森ヒバ・木曽ヒノキと並ぶ日本三大美林として名を連ね、その美しい景観の維持管理が行われてきました。しかし、近年豪雨などが激甚化し、既存の美林そのものが災害によって喪失するというリスクが顕在化してきています。このため、秋田杉の美林を次世代まで継承していくための取組として、既存の森林の保護だけでなく、新たに美林を創出する取組が構想されました。このような背景の中、東北森林管理局では令和5年度新たに秋田スギ美林誘導プロジェクトをスタートさせました。



図1：天然秋田スギ林の例
(上大内沢自然観察教育林)



図2：豪雨による林地崩壊
(上小阿仁支署管内)

この美林誘導プロジェクトは、既存の天然林からではなく、優れた人工林から新たに秋田スギの天然林に匹敵する森林を創出することを目的としています。一般的に、木材生産を目的としない森林では広葉樹は積極的に保残し、スギと広葉樹の混交林へと誘導を行っていますが、この美林誘導プロジェクトにおいては、成長が良好な林分を誘導候補林分として設定し、スギ純林の形成を目的として広葉樹の積極的な間伐を行うことが特徴となっています(図3参照)。そして、250年から300年生の極めて高齢級のスギ純林に誘導して

いくことを目的としています。

また誘導するスギ林を、長期的に肥大成長をさせ巨木が林立する空間を目指す巨木林タイプと、長期的に肥大成長を抑え、細かい年輪幅のスギの育成を目指す鬱蒼林タイプの二つに分け、観光需要や曲げわっぱといった伝統工芸品の製造などの木材生産に対する需要をカバーできることを目指しています。

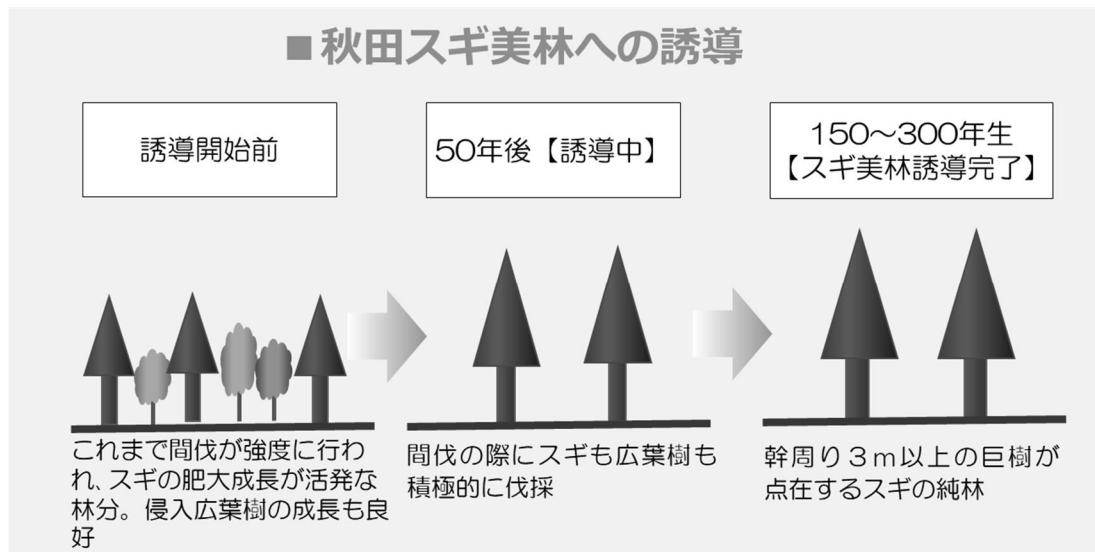


図3 誘導方法のイメージ図

対象となっている地域は秋田県の北側を占める米代川流域の国有林です。この米代川流域の米代西部森林管理署、米代東部森林管理署、米代東部森林管理署上小阿仁支署の3つの森林管理署が管轄する国有林の中から優れた人工林を選定し、これを美林誘導候補林分として設定しました。当支署では上小阿仁村内に位置している138林班ろ小班内の森林を選定しました。この場所は天然秋田スギの平地林として有名な上大内沢自然観察教育林（図1）に近接しており、成長が旺盛であることや、観光地としての相乗効果を期待して設定されました。今後、この候補林分において前述したような美林を創出するための施業が行われていくことになります。

プロジェクトの概要については上記のとおりですが、一方で今後このプロジェクトを進めていくためには、プロジェクトが長いスパンのものである、あるいは定期的な森林施業を必要としているといった理由から、技術的な取組に加えて地域の方々とビジョンを共有することが重要になってきます。例えば当支署でも地元住民の要請を受け、地元観光協会などを対象にプロジェクトに関する説明会を行いました。このようなビジョンの共有をスムーズに行っていくためには、プロジェクトに対する地域の方々の反応を把握することが重要であると我々は考えました。そのため、地域の関係団体へのアンケート調査を通じて、このプロジェクトに対する反応を調査することとしました。

2 調査方法

アンケートの質問内容については、大きく分けて地域関係団体の「認知」と「関心」を問う質問を設定しました。「認知」では、美林というワードに対する認知度とプロジェクト

に対する認知度を質問しました。「関心」では、美林に対する関心、すなわち美林がもたらす環境について魅力を感じるかどうかという点と、プロジェクト自体への関心を質問しました。プロジェクトに対する関心は、さらに細分化してプロジェクトに期待する価値とプロジェクトに求める取組を質問しました。

プロジェクトに期待する価値としては大きく分けて美林が持つ木材としての価値と環境としての価値を設定しました。これらは美林プロジェクトが達成された際の利益として東北森林管理局があらかじめ想定していたものです。具体的には木材としての価値に「木材生産機能」、「雇用・産業の創出」、環境としての価値に「生態系の保全」、「風致・景観の向上」、「観光資源としての活用」を設定しました。総じて前者は森林が伐採されることで発揮される価値、後者は森林が存在し続けることで発揮される価値と互いに相反する性質を有しています。

プロジェクトに求める取組としては、先ほど示した価値を達成するために必要と思われる「積極的な間伐」、「下草の除去」、「歩道や看板の整備」、「ウォーキングマップの作成」、「見学プログラムの作成」、「森林教育・啓発活動の実施」の6つを設定しました。

アンケートは米代川流域の自治体の林務担当者や、小中学校などの教育機関の関係者、そして林業事業体や木材流通業者、加工販売会社といった川上から川下までの木材産業関係者、地元の観光協会を対象に実施しました。アンケートは2023年の11月下旬から12月上旬に実施し、こちらがアンケート用紙を送付し、その用紙を無記名で返送してもらうという方式を採用しました。アンケートは合計41通発送し、そのうち35名の回答を得ました。

3 結果

三大美林についての認知度は、図4のとおり天然秋田スギが含まれていることも知っている人が最も多く、聞いたことがあるという回答を含めて、三大美林を知っていると回答した人は全体の9割に及びました。

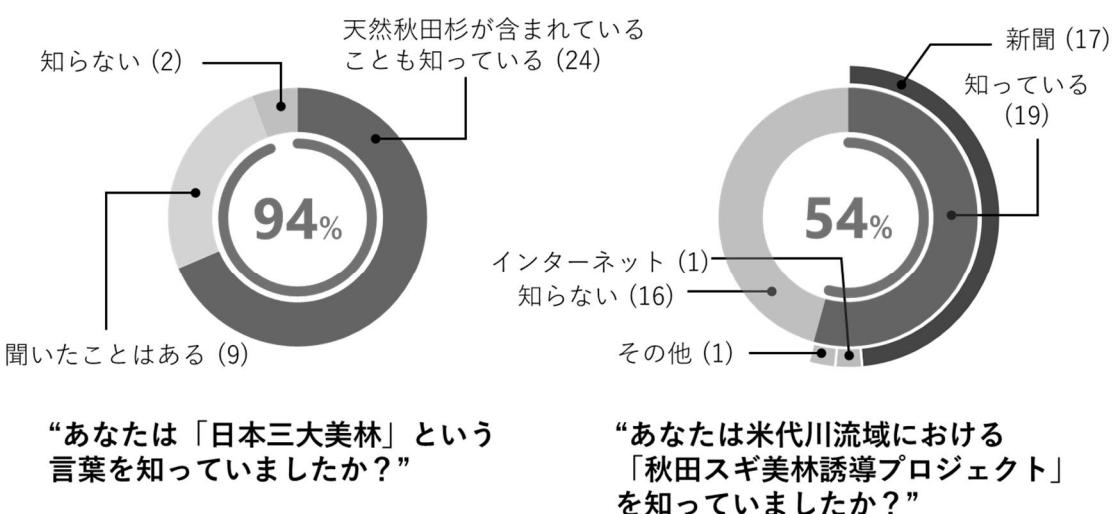


図4：三大美林の認知度

図5：プロジェクトの認知度と

情報入手手段

次に、プロジェクトに対する認知度は、図5のとおり「知っている」と回答した人が5割にとどまりました。またその情報入手手段について、局ではホームページへの掲載や、複数新聞社への記事の掲載などを行ってきましたが、その中で新聞が圧倒的多数を占めました。

美林およびプロジェクトに対する関心についての回答結果は以下のとおりとなりました。まず美林そのものに対する関心を問うために、「あなたは身の回りにスギの美林が存在することに対して魅力を感じますか」と質問したところ、図6のとおり9割以上の回答者が魅力を感じると回答しました。

“あなたは身の回りにスギの美林が存在することに魅力を感じますか？”

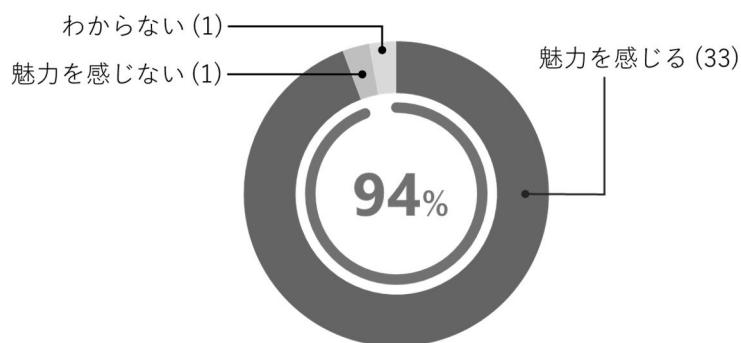


図6：プロジェクトに期待する価値

プロジェクトに対する関心についての結果は以下のとおりです。プロジェクトに期待する価値について、複数選択で回答してもらったところ、図7のとおり多い方から風致・景観の向上、観光資源としての活用、そして木材の生産と続きました。雇用・産業の創出および、生態系の保全はあまり選択されておらず、全体としては環境としての価値を重視しているような結果となりました。プロジェクトに期待する取組としては図8のとおり、歩道や看板の整備、および森林環境教育に関する取組の二つが際立って多く選択されました。これらはいずれも森林を環境として活用するための取り組みであり、逆に積極的な間伐や下草の除去といった森林に手を加える取組は選択されづらい傾向にあることがわかりました。

“あなたがプロジェクトについて期待していることを教えてください”
(複数選択可)

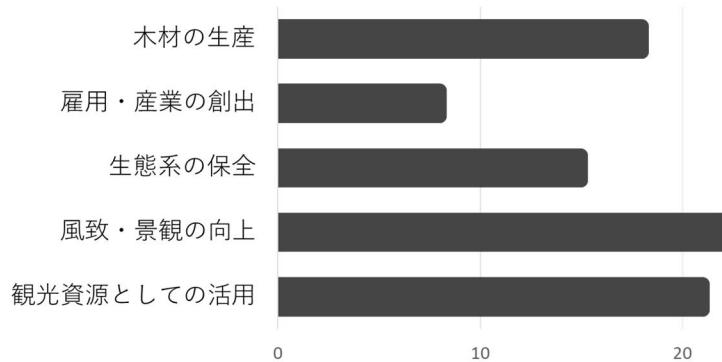


図7：プロジェクトに期待する価値

“プロジェクトをよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか”
(複数選択可)

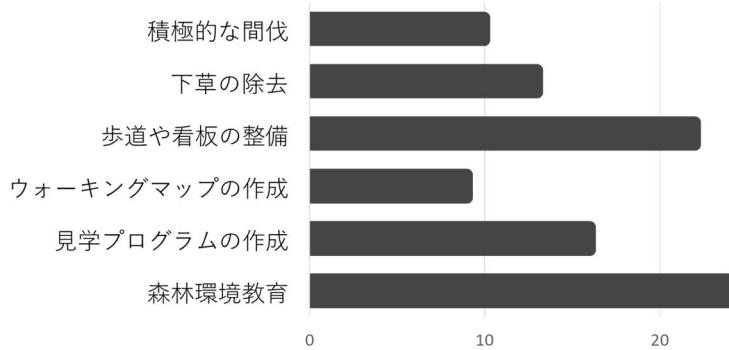


図8：プロジェクトに求める取組

4 考察

プロジェクトの認知度について、プロジェクトそのものの認知度は5割程度とまだまだ高いとは言えませんでした。しかし、「三大美林」という言葉に対する認知度や秋田スギの美林がまわりに存在することへの好ましい評価といった結果から、秋田スギそのものへの関心は高いことが示唆されました。このように、地元の方々との美林に対する共通認識を有していることは今後広報活動を進めていくうえで大きなアドバンテージになると考えられます。

プロジェクトに対する関心について、期待する取組として森林環境教育や、歩道・看板の整備がよく選ばれていたことや、間伐や下草の除去といった森林の現状を変更する行為があまり選ばれなかつたことなどを考えると、環境としての美林の価値を地域の方々が重視していることが示唆されました。森林の持つ多面的機能には様々なものがありますが、この美林プロジェクトにおいては森林のもつ木材生産機能よりも、レクリエーション機能や保健機能を発揮することが求められているといえると思います。一方で誘導候補地が美林としての景観になるまでには長い年月がかかります。地域のニーズに合わせて環境としての価値を早い段階でどのように発揮させるのかは今後の課題であるといえます。

現段階ではプロジェクトの具体的な施業方針等は定められておらず、方針や候補地が設定されるにとどまっています。プロジェクトは極めて長い計画期間ではありますが、このプロジェクトの達成には地域の方々の理解が不可欠です。これからも地域の方々の意見を定期的に把握しながら、地域を巻き込んだ一体的な取り組みが求められていくと思います。